ちほの
おしゃべりタイム

こよみのよぶね

オフィスPrima 代表
フリーアナウンサー
ビジネスマナー講師
透（とおる） 千保（ちほ）

東海地方の各放送局（岐阜放送/ぎふチャン、FM GIFU、東海ラジオ、メ～テレなど）で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋市営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。
一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話応対などの研修講師を務め、人財育成に取り組んでいる。

長良川の冬の風物詩「こよみのよぶね」は、岐阜市出身のアーティスト日比野克彦さんが、展覧会開催をきっかけに2006年に始めたもの。アートで人の心をつなぎ岐阜の魅力を再発見するボランティア・プロジェクトです。

岐阜の伝統産業である和紙と竹で作られた1月から12月を表す数字の行灯とその年の干支をかたどった行灯を乗せた船が、冬至の日に長良川に浮かび、幻想的な雰囲気に包まれます。市民有志がこれらの行灯を作り、見るだけでなく、みんなが参加できる「つながるアート」として受け継がれています。

縁あって、初回から進行のアナウンスや日比野さんとのトークを担当させていただいていますが、金華山を背景にすべての船が勢揃いした美しさは、言葉にできないほど。川面に映る行灯の柔らかな光や船上から聞こえる太鼓の音も相まって、自然と一体となった芸術作品のようです。また、月明かり、気温、川の水量は毎年違い、繰り返しつつ移ろいゆく時の営みへの畏敬の念さえ覚えます。

畏敬とは、大自然や悠久の時などの巨大な存在に対する感情です。心理学の研究によれば、畏敬を抱くと人は、自分の小ささを思い知ると共に、他者への想いを強め、他者や社会を助ける行動の傾向を高めるそうです。みんなが自分のことで精一杯な現代だからこそ、ふと立ち止まり心を動かす瞬間は貴重だと思えます。

「こよみのよぶね」で恒例となっているのが、船を見ながら今年の出来事をひと月ごとに振り返る「時の流れ」という時間です。市民のみなさんが書いた短冊「こよみっけ」を船に乗せ、月ごとにどんなことがあったのか振り返るのですが、忙しく過ぎてしまった１年の、自身の記憶を呼び覚ます儀式のようになっています。特に今年は、時が止まったように感じたり、速く過ぎてほしいと祈ることもありました。例年より鮮明に覚えていることが多いかもしれません。

過去を回想する時と未来を展望する時の脳の活動パターンは同じだと、聞いたことがあります。私たちが過去を振り返るのは、経験を糧とし、それを組み合わせることで、まだ見ぬ未来のシミュレーションを行うためなのだとか。辛かったこと、頑張ったこと、その中でも嬉しかったこと、を思い出すことで、また次の年へ思いを馳せることもできそうです。

今年もまた、そんな瞬間を求めて、長良川の岸辺にたたずむことでしょう。そろそろ一年の総括をし、来年へと舵を切る時期。みなさんにとって、今年はどんな年でしたか？思うように行かなかったことは、川と時の流れが持ち去っていってくれそうです。一年で一番夜が長い冬至の日に、長良川におでかけになってみてはいかがでしょうか。